

～発想力豊かな
やひろりへえ
八尋利兵衛～

博多で年末のバーゲンセール

といえば「せいもん払い」。せいもん
払いを始めた明治時代の博多商

人の八尋利兵衛はいろいろなアイデア

で博多を盛り上げました。

そのアイデアの一つが、「向島住吉遊園地」

(現在のキャナルシティ博多の敷地内)です。

明治33(1900)年ごろ、遊園地のオープン

を記念して大きな灯籠が建てられました。

そこには遊園地に出資した

商店の屋号がびっしりと刻まれています。

まさしく“広告塔”の走りではないでしょうか。

中には利兵衛の営んでいた漬物屋・金山堂の屋号もあります。

探してみてくださいね!

※現在は清流公園内にあります。園地の市街地化により、昭和29年に移されました。

pickup/
博多にちなんだ広告



▲博多人形



▲博多織

--金印「漢委奴国王」の展示について

福岡市博物館の休館(施設改修工事)に伴い、金印「漢委奴国王」とその関連資料を福岡市美術館にて展示します。

期 間：令和2年12月8日(火)～令和3年3月28日(日)
場 所：福岡市美術館(中央区大濠公園 1-6)
休館日：月曜日、12月28日～1月4日
観覧料：一般200円、高校生150円、中学生以下無料

- ・国宝 金印「漢委奴国王」
 - ・金印弁(亀井南冥による最初の金印鑑定書)
 - ・志賀島金印詩(亀井南冥の弟で崇福寺住職・雲栄が詠んだ詩)
 - ・黒田斉隆像(金印が発見された時の黒田家当主の肖像画)
- ※資料保護のため、金印以外は期間中に展示替えを行います。

--埋蔵文化財センターから「考古学講座」のおしらせ

①考古学講座一発掘調査速報編一

「謎の飛鳥時代の瓦群一那珂遺跡群調査成果より一」

日時：令和2年12月19日(土)
午前の部10:00～11:00/午後の部13:30～14:30

②考古学講座一発掘調査速報編一

「青銅の武器と弥生人一那珂遺跡群の調査成果より一」

日時：令和3年1月16日(土)
午前の部10:00～11:00/午後の部13:30～14:30

【講座の応募方法など】

募集期間：①は12月15日(火)まで
②は12月27日(日)まで

定 員：各回40名

応募方法：氏名、電話番号、受講希望日、時間帯を記載し、メール(maibun-c.EPB@city.fukuoka.lg.jp)へ送付。来所でも受付可能。

場 所：博多区井相田2-1-94

そ の 他：午前・午後ともに内容は同じ。

応募は1人1通、1通に受講希望の講座・時間帯をすべて記入

福岡市経済観光文化局 文化財活用部

住所：福岡市中央区天神1-8-1
TEL：092-711-4666 FAX：092-733-5537

文化財の保存・管理・活用に関すること	文化財活用課	TEL:092-711-4666
史跡の整備・活用に関すること	史跡整備活用課	TEL:092-711-4784
埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること	埋蔵文化財課	TEL:092-711-4667
埋蔵文化財の収蔵・保管・分析に関すること	埋蔵文化財センター	TEL:092-571-2921

ホームページ 福岡市の文化財

<https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも情報発信中!



正月を祝う
博多松囃子

令和2年(2020)3月に国指定の重要無形民

俗文化財に指定された博多松囃子。現在の松囃子は

5月の博多どんたく港まつりの中で行われますが、本来、小正月(旧正月15日)の行事でした。江戸時代に貝原益軒によって書かれた『筑前国続風土記』には「博多にて正月十五日に松囃子といふ事を取行ふ。」とあります。博多松囃子は、その後様々な行事に取り込まれる中で日程が変化していき、現在の日程で行われるようになったのは昭和24年(1949)からです。



松囃子は福神・恵比寿・大黒の三福神と稚児舞からなる

松囃子には、華やかな衣装で囃し踊る「風流」の形態と「能」の形態がありましたが、時代の流れの中で次第に「能」の形態をとるものが多くなり、現在、多くの地域で能の形態をとったものが伝えられています。中世の民俗文化が色濃く残る「風流」の形態をとどめた博多松囃子はとても貴重な事例です。

～ 埋蔵文化財発掘ミュージアム ～

昔のカイロ 温石（おんじゃく）

冬の寒い時期、温かいカイロは便利なものです。現在は振ると化学反応で温くなる便利なカイロがありますが、昔の人々はどうのようなものを使っていたのでしょうか。

四角い石（写真1）は博多遺跡群から出土した「温石」というものです。平安時代から鎌倉時代のものと考えられます。柔らかく加工しやすい滑石という石で作られており、火鉢に入れて温め、布や真綿などくるみ懐に入れて使いました。小さな穴は、火鉢で温めた石に直接触れてやけどをしないために火箸を通して取り上げるためのものです。

温石の材料となる滑石は、当時煮炊きに使われていた滑石製石鍋（写真2）を再利用したようです。エコですね。



1.温石 博多遺跡群第22次調査（重要文化財）
2.滑石製石鍋 博多遺跡群第80次調査（重要文化財）

～ 福岡城の歴史をめぐる ～

石垣の「旬」は❄️？

風も冷たく、つつい外に出るのが少なくなりがちな季節ですが、福岡城の「石垣」をじっくり見るには、木の葉が落ち、草も枯れるこの冬の季節が最適です。夏の間、木々の緑に隠されていた石垣が遠くからでもよく見え、高さ10mを超える本丸の石垣の迫力や、二の丸北側の石垣の複雑な形は、この時期が最も映えて見えます。



木々の葉が落ちて姿を現した、本丸・天守台の石垣

また、福岡城の石垣は場所によって、自然石を積み上げていたり、人の手で整形した割石を積み上げていたり、様々な石積みの技術を見ることができます。また、石垣に使われている石にもいろいろな種類の材質があり、石垣に生えていた草が枯れて石がはっきり見える冬には、それぞれの石垣が違う表情を見せます。

石垣をめぐるながら城の勇壮さを感じることができる、冬の福岡城にもぜひ足をお運びください。

国指定史跡 福岡城跡（福岡市中央区城内）

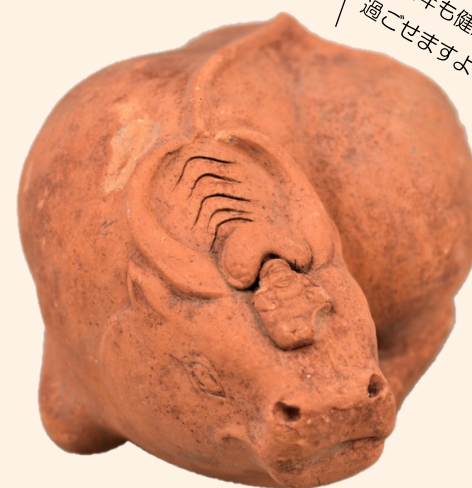
～ 埋蔵文化財センターだより ～

来年は丑（うし）年です！

2021年は丑年ということで、博多区祇園町から出土した牛の盾間に大黒天の像をあしらった土製品を紹介します。作られた時期は不明ですが、牛の頭は七福神の柱である大黒天の分霊が宿ると考えられており、縁起物として作られたようです。

牛に神が宿るといふ信仰の起源はいくつかありますが、そのひとつに菅原道真の遺体を牛車に乗せて運ぶ途中、牛が横たわり動かなくなったため、近くの安楽寺(後の太宰府天満宮)で埋葬されたという故事があります。後にその横たわった牛が「神の使い」であるとされ、諸病平癒の力があると考えられるようになりました。

2020年は新型コロナウイルスの世界的流行が起きた一年でしたが、来年は無病息災の年になることを願います。



来年も健康に
過ごせますように

博多遺跡群第156次調査(博多区祇園町)出土の牛形土製品

福岡市埋蔵文化財センター ホームページ
<https://www.city.fukuoka.lg.jp/maibun/html/>

